

1 国文化財指定にむけ申請（8月2日）

平成14年8月2日に、各市町村から提出いただいた国史跡指定申請書を、文化庁へ提出し、現在、文化庁で審査中です。10月に国史跡指定文化財保護審議会が開催され国史跡指定がされる予定です。

現在、世界遺産登録の推薦書を三県共同で作成しています。

今後の予定 平成14年11月 世界遺産登録の推薦書を文化庁へ提出
平成15年 2月 ユネスコへ推薦書を提出
平成15年 国際記念物遺跡会議による現地調査・修正指導
平成16年 4月 世界遺産ビューロー会議
平成16年 6月 世界遺産委員会にて登録決定

2 熊野古道アクションプログラム作成ワークショップ始まる

8月22日第1回熊野古道アクションプログラム作成ワークショップが開催されました。今回のワークショップは公募により東紀州地域を中心にいろいろな方に応募していただきました。当日は民間・行政合わせて約100名のメンバーで開催することができました。

当協議会のメンバー・賛助会員からも多くの方がワークショップの市民プランナーとして参加していました。

当日は、アクションプログラム作成について説明を1時間ほど受けた後、紀伊長島町教育長 小倉肇さんから「熊野古道について」、三重県世界遺産登録推進室 近澤多賀子さんから「世界遺産について」講演をしていただき、世界遺産と熊野古道についての知識を深めました。

その後8つの班にわかれ、世界遺産登録後の熊野古道をどのようにして、活用・保全していくのかについて話し合われました。今回のワークショップでは特に、現状で考えられる課題と将来の古道の理想像として夢が語られました。各班で40分ほど検討された後、結果が発表されました。



3 「遊歩百選」に熊野古道選ばれる。

前号で皆様に依頼しました「遊歩百選」ですが、皆様の協力のおかげで、和歌山県・奈良県と一緒に「熊野古道」として見事百選の中に選ばれました。

第2号の発行後の日程ですが、5月31日に一般投票が締めきられ、7月に選考委員会がありました。この選考委員会のメンバーがそうそうたる顔ぶれでした。特別選考委員には、長嶋茂雄さん。選考委員には浅井慎平さん・小椋佳さん・藤本義一さん・黛まどかさん・楓千里さんでした。

遊歩百選のHPを見ると、百選の紹介のページには、以下のように紹介されていました。

「遊歩であるからには、参加した人が楽しめることが第一」、「未知の物と出会う楽しみがないと…」など、白熱した議論が長時間に亘って繰り広げられました。日本の自然、文化、歴史遺産を再発見する旅、遊歩百選。さあ、あなたも出かけてみませんか。

本当に熊野古道もこのような道であると思います。これからも訪れる人が楽しんでいってもらえるような道でありつづけたいものです。

「熊野古道伊勢路友の会」会員募集

東紀州活性化協議会が熊野古道伊勢路友の会の会員の募集を始めました。会費は年会費が個人会員は1,000円法人会員は3,000円です。会員にはFSC材で作った楕円の会員証といった会員グッズがもらえます。今後は古道や古道周辺の情報を皆さんにお届けし、会員特典も展開していくということです。詳しくは東紀州活性化協議会(05972-3-3434)にお問い合わせを



(右が法人・左が個人会員用)

4 古都麗し ～北京の世界遺産を訪ねて～ 写真展開催

平成16年度を目標にした熊野古道の世界遺産登録に向け、世界遺産の視察を目的に、等協議会の会長 吉田金好さんを団長として「もてなしのさとづくり会議」の有志28名が、中国・北京の世界遺産を訪れました。

そこで、8月26日～9月6日まで「紀北県民局県民ルーム」にて、『万里の長城』『故宮』『天壇公園』『い和園』といった、荘厳かつ雄大な4ヶ所の世界遺産の写真(A4版)30枚を展示しました。

県民ルームには写真のほかに各世界遺産を説明したパンフレットや中国でのお土産も一緒に飾られ、世界遺産のすばらしさが表現されていました。



5 NPO法人「紀北くまの道」川端守さんの講演会開催

紀北県民局では、部の壁を越えて幅広い知識を習得するためマトリックススタディを開催し、局内職員のほか地域住民の方々にも講師をしていただいています。第4回の7月31日は、NPO法人「紀北くまの道」の川端守理事長から「旅人が熊野古道に求めるもの」と題してお話をいただきました。

尾鷲高校のワンダーフォーゲルのメンバーと八ヶ岳登山から帰ったばかりで、30数年前と比べると登山者、山小屋とも大いに変貌してきています。山小屋は、個室あり、水洗トイレ・シャワーあり、フルコースのフランス料理ありで、テント一つを背負い登山したことからすると隔世の感があるとのこと。

第一次登山ブームの頃には、高校の山岳クラブは多くのクラブ員がいましたが、だんだんと登山そのものが低迷の時代に向かったのと同時に、たくさんあった山岳クラブも自然淘汰され廃部の運命に直面しています。今山登りをしているのはほとんどが中高年だそうです。

登山の形態も変わってきているように、旅も大いに変容してきています。

それは生活様式の変化が要因ではないかと、高度経済成長期には、お金を使って遊ぶいわゆる享楽・散財・ドンチャン騒ぎが旅の姿でしたが、バブル経済崩壊後は、中高年はお金をかけずに自然や健康を志向する旅をし、若い人は東京ディズニーランドなどテーマパーク型の旅に変わってきています。

熊野古道についても、今は第三のブームと言われています。

第1のブームは中辺路を中心とした上皇・貴族の熊野三山詣で、第二のブームは江戸時代におこり、日常(定住)を逃れて、非日常(放浪)を求めた物見遊山型の熊野古道詣で(蟻の熊野詣でと称し伊勢路が賑わった)だったと分析されています。

熊野古道ウォークは、登山者が山に求めていたものと共通するところがあり、登山ブームである中高年の里山版とも言えます。

自然・歴史・アウトドア志向と合致し、この第3のブームは本物ではないかと言ってみえました。

この平成の熊野古道伊勢路ブームを支えていくには、地域住民の熱い思いと行政的確な支援が求められると、熊野古道の世界遺産登録で、経済波及効果を期待する人がいますが、自然・健康、歴史・文化志向からすればあまり期待をしないほうがいいのではないかと。

万里の長城にしてももとは自然の中に人類が作った人工物です。万里の長城と同様に熊野古道が世界遺産に登録されるのです。

我々地域の者は、熊野古道にもっと自信と誇りを持っていいのではないかと締めくくられました。

熊野古道ニューズ～東紀州活性化協議会～

最近熊野古道がますます注目を浴びてきました。

古道ツアーは今まで、三重県内・東海地方が中心でしたが、東京から2泊3日の熊野古道ウォークツアーも計画されています。毎年3月から6月にかけて三重交通大遠足が企画されていますが、新たに名阪近鉄旅行が来年1月～8月まで一万人ウォークを計画しています。当協議会では毎年80社以上の旅行会社を訪ね、ツアー企画を依頼する営業活動を行っています。今後は東京方面にもアプローチしたいと考えています。

テレビ特番ではNHKが9月29日(日)13:00～15:30までBS2でタレントらが率いる伊勢路・中辺路・大峯道の三県選抜チームが熊野本宮大社を目指す「クイズで踏破紀伊半島巡礼の道」を放送します。また、9月10日発売の「旅の手帖」10月号では28ページの伊勢路特集が、10月10日発売の「旅」では三県の熊野古道と周辺の大特集となる予定です。本屋さんに行ったら是非手にとって見てください。

連載（第3回）（未発表熊野古道古文書）

（この連載は副会長の野田敦美さんによるものです）

諸国旅人帳 子ども送り二例

（その一）

送り一札

当時六ツ

一 紀州室郡大原村

市松

所持之品

往来手形

吉通

竹かうり

吉ツ

すたつ仕衣

吉ツ

古風呂敷

吉ツ

茶わん

吉ツ

箸

吉膳



右者心願二御座候二而、両親并二悴市松召連、三人連二而当二月国元出立所々順拜仕、先月五日当初迄参候処、親義病氣二取合行倒居申候二付、早速医師二相掛服薬食事等相用ひ療養差加候得共、金四郎儀当五月七日相果、同人妻とよ儀当六月七日相果申候二付、幼年之市松吉人二相成り申候故帰国仕度旨願出候二付、任其意愛許役場へ相訴候処本人 一札ヲ取、村継送り遣し候様被申付候二付送り出申候、駅々村々無滞御継送り可被下候、及時節候八八食事等御与可被下候、若途中に而病氣差出候八八服薬療養御差加へ、万端御心添被遣可被下候、依而送り状如件

伊賀国名張組

天保十

黒田村庄屋

亥年六月九日

森 又助

七月四日未刻着、直二出ス

伊賀名張郡結馬

紀州室郡大原村迄

駅々村々 御役人衆中

天保十亥年（一八三九）の日付の次の行の「七月四日…」は尾鷲大庄屋の着メモである。所持の品「往来一札」は次のとおりである。

往来一札

一 紀州室郡大原村

金四郎・妻子 都合三人

右之者 宗旨者代々禅宗二而拙寺旦中二紛無御座候、此度心願二付、諸国神社佛客順拜仕度候間、国々 御関所等無相違御通可被下候、若亦行暮候節八一

夜之宿頼上候、万一病死等仕候節八其御所之御作法を以御取置可被下候、其節此方へ御届ケ二及不申候、為後日往来一札依而如件

天保十

同国同所

亥二月

大聖寺 印

国々

御関所

御役人衆中

右の「送り、往来」の一札から、紀州室郡大原村（現紀伊長島町大原）の金四郎妻子共三人が諸国神社佛客の順拜に出たが、伊賀国名張組黒田村（現名張市黒田）まで来て、父親金四郎、母親とよが病死して、六ツ（当時数え年でない、節分をすぎると更に一つ年をとるから四才か、誕生日をすぎていれば五才ということになる）の市松がひとりぼっちになったことがわかる。

二月（日付不明）に大原を出て、五月五日に名張組黒田村に着いたが親が病気で倒れた。早速医者に診せ、薬をのませ、食事にも気をつけ療養させたが、二日後には父親が死亡、母親がその一ヶ月後に死亡して、幼児の息子市松がひとりぼっちになってしまっている。

そこで、いろいろの手続きを経て、大原へ帰ることになったが、「送り一札」には、成人にはない心遣いを名張組黒田村の庄屋、森又助が記して庄屋たちに頼んでいる。

食事の時間になったら、きちんと与えてやって下さい。病気になったら、薬をのませ、療養させて下さい。万端の心配りの程をお願いする。と大原村までのいくつあるかわからない多数の村々庄屋にお願いしている。

さてどんな道すじをたどって大原村へ帰ったのか？だが、尾鷲大庄屋に「七月四日未刻（現午後二時）着、直二出ス」とあるから、尾鷲を通ったことになる。名張市黒田は大和国に近いことから、室生村の方から吉野方面から川上村上北山村まわりで尾鷲へきたのであるうか。幼児とはいえ、山中の道を村々の庄屋が次から次へと継ぎ送っていくことは難儀なことであつたらう。

伊賀国名張から大原まで帰るについては、伊勢国に入り、南へ下って紀伊国に入つて、長島組 大原村と行かなかつたのにはなにか理由があつたのだろうか。

「往来一札」を出している「大聖寺」だが、大原村で禅宗ということから、現在の「大昌寺」のことであろう。この「諸国旅人帳」は尾鷲大庄屋へきた旅人を次の庄屋へ送るにあたり、「送り一札」「往来一札」を書き写し、控をとつておいたものだが、旅人を待たしておいて書いたのが、大変くずしが大きく、思いこみで書いたらしい誤字がある。

アルピニスト 野口健さんが紀伊長島町へ！！

熊野古道3県リレーフォーラムが開催されます。今こそ熊野古道の保護・保全について考えていくいい機会だと思います。世界遺産条約の意義や理念を正しく理解しながら、一人ひとりがどのように保護・保全に関わっていくべきかを考えてみませんか。

当日は、アルピニストの「野口健」さんから「世界遺産の自然環境をまもる」と題した講演をしていただいた後、トラベルデザイナーの「おそどまさこ」さんなどを加え、「地域の宝物・世界遺産の保護と豊かな活用のあり方について」という題でパネルディスカッションが行われます。詳細については以下のとおりです。

開催日時 平成14年10月13日(日)午後1時30分から4時10分まで

開催場所 紀伊長島町 東長島公民館

シンポジウム 午後1時30分～2時30分

テーマ 「世界遺産の自然環境をまもる」

講師 野口 健 アルピニスト

パネルディスカッション 午後2時40分～4時10分

テーマ 「地域の宝物・世界遺産の保護と豊かな活用の在り方について」

コーディネーター 内田 種臣 早稲田大学教授

パネリスト おそど まさこ トラベルデザイナー

北川 正恭 三重県知事

野口 健 アルピニスト

野口 英雄 ユネスコ・インターセクトラル・ニ
クト・アドバイザー



申し込みは別添の書類を返送して下さい。

熊野古道世界遺産登録推進ウォーク始まる

今年の5月の熊野古道世界遺産登録推進ウォーク第1弾「古道と自然のもてなし」に続いて、第2弾を開催します。今回のテーマは「古道と自然を体験しよう」です。古道の生き物の観察や絵手紙づくりなど、自然を感じることに出来る体験をメインに組んでみました。

募集の方ですが、ほとんどの峠で定員近くに達しています。すでに埋まってしまったものもあります。

今回のウォークの詳細は別添のチラシのとおりです。当日語り部をお願いする語り部の皆様、もてなしをしていただく古道保存会の皆様、体験の講師をしていただく皆様。いつもお世話をおかけしておりますが、今回もよろしくをお願いします。

編集後記

私も先日NHKで熊野古道を紹介させていただく機会をもらいました。生放送だったので、緊張のあまりそれほど多くのことは伝えることは出来ませんでした。10分間宣伝をさせていただきました。ツツラト峠を守る会の人々、賀田の大川さんのインタビューも放送され、皆さん楽しそうに普段の活動について話をされていました。

秋の行楽シーズンが始まります。もてなしのさとづくり会議のウォークには参加する予定ですが、また、この地域に来てくれる人とのふれあいを楽しみたいと思います。



発行元 世界遺産登録推進紀北地域協議会事務局
〒519-3695

尾鷲市坂場西町1-1 三重県紀北県民局企画調整部内

電話 05972-3-3409

FAX 05972-3-2130

URL <http://www.pref.mie.jp/OKIKAKU/HP>